

## 【 設問アプローチ 】

### [ 18 - B ]

問1 : ① [ 設問チェック ] 傍線部と〈 同じ 〉漢字を選ぶ問題であることを把握する。

② [ アプローチ ] 本文読解の際、傍線部に差し当たってその語句に適切な漢字を文脈を参考にしながら判断し、本文の空いているところにメモしておく。

③ [ 設問読解 ] 本文を一通り読み終えてから、改めて設問文を確認し問題を解く。  
②を踏まえて、選択肢から傍線部と同じ漢字を使用する語句を、解答として選ぶ。

問2 : ① [ 設問チェック I ] 傍線部について、〈 理由 〉が求められていることを把握する。  
また設問文より、『「弱い葦」と実際の葦との違い』について本文で言及されている部分に注目することを押さえておく。

② [ 設問チェック II ] 傍線部中に「ここに」とあることから、指示内容を把握する。

③ [ 本文読解 ] 傍線部①中の「ここに」の指示内容は、直前の2文の内容を指している。  
そして、文脈から傍線部①の内容説明は、傍線部①以降にあることが読み取れる。

21行目 ～ 30行目の辺りが傍線部①に関する〈 内容説明 〉になっており、この部分が設問の〈 根拠 〉になることが考えられる。  
この範囲の内容を細かく見ると、27行目に〈 Aではなく、B構文 〉が使われており、「一本の葦」がキーワードになっている。  
続く28行目は「なぜなら」から内容が始まっており、この部分が設問で求められている〈 理由 〉であることが考えられる。

④ [ 設問読解 ] ③を踏まえて、本文の内容を適切に説明している選択肢を解答として選ぶ。

問3 : ① [ 設問チェック ] 傍線部について、〈 内容説明 〉が求められていることを把握する。  
また、傍線部中のキーワード「考える葦」の〈 内容説明 〉を本文から明らかにする。

② [ 本文読解 ] 31行目から〈 意味段落 〉が変わっており、また傍線部②とその前後の文脈から、傍線部②の〈 内容説明 〉は傍線部②以降にあることが読み取れる。

①で確認した傍線部中のキーワード「考える葦」から、本文中で関連する内容を確認すると、35行目と39行目に、それぞれ「考えると言うことは、- 」という〈 言葉の定義付け 〉が

ある。

また、44行目には「人間の思惟は、-」いう〈言葉の定義付け〉があり、この部分も「考える」というキーワードの類義内容として把握することができる。

以上から、33行目～45行目の辺りを傍線部②の〈内容説明〉と捉え、設問の〈根拠〉と考える。

- ③〔設問読解〕選択肢文全体を確認すると、選択肢は全て「考えるという作業は」で始まっている。

このことから、②で確認した本文内容の中で、「考えると言うことは、-」という〈言葉の定義付け〉を設問に関する〈要点〉と考えることが間違いではないと、ある程度の確証を得ることができる。

その上で、②で確認した〈根拠〉を踏まえて本文の内容を適切に説明している選択肢を解答として選ぶ。

- 問4：①〔設問チェック〕傍線部の〈内容〉を明らかにするとともに、傍線部に関して〈理由〉を答える問題であることを把握する。

また、傍線部の内容を明らかにするためのポイントとして、傍線部中の「それ」と「その」の指示内容があることを押さえておく。

- ②〔本文読解〕まず、50行目の辺りから〈意味段落〉が変わっていることを把握する。

その上で、傍線部③中の「それ」、「その」の2つの指示語の指示内容を確認する。この2つの指示語は、ともに53行目～55行目の辺りの内容を指している。この範囲の内容としては、54行目に「そしてその理由としては、-」という記述があり、この部分が傍線部の〈内容説明〉であるとともに、設問で求められている傍線部に関する〈理由〉であることが読み取れる。

また、傍線部③以降の内容を確認すると、文脈からこの部分は傍線部③の補足説明であることが読み取れる。

57行目には『「死ぬ」ということについて人間が自覚するということは、』という内容があり、また60行目の辺りには『「思惟」あるいは考えるということ…』という内容がある。

以上のような傍線部③前後の内容を踏まえると、傍線部③の要点は

「人間だけが考えることができ、それによって自らが死ぬことを知っている」というように考えることができる。

- ③〔設問読解〕②で確認した本文の要点を踏まえて、本文の内容を適切に説明している選択肢を解答として選ぶ。

- 問5 : ① [ 設問チェック ] 傍線部に関して、〈 内容説明 〉が求められていることを把握する。  
また、傍線部中に指示語「ここに」があるので、その〈 内容説明 〉を本文から明らかにする。
- ② [ 本文読解 I ] 傍線部④中の「ここに」の指示内容を、本文から確認する。  
「ここに」の指示内容は、71行目～75行目の辺りにある。  
この範囲の内容を、傍線部に関する1つめの〈 要点 〉と考える。
- ③ [ 本文読解 II ] 次に、傍線部④以降の内容を確認する。  
傍線部④の直後の一文が「同時に、」で始まっていることから、傍線部④に関する内容が傍線部④以降にもあることが〈 予測 〉される。
- 傍線部④以降の内容の〈 要点 〉は、85行目～87行目の辺りにある。  
87行目には、「思惟は、-」という〈 言葉の定義付け 〉がある。  
この範囲の内容を、傍線部に関する2つめの〈 要点 〉と考える。
- ④ [ 設問読解 ] ②と③を踏まえて、本文の内容を適切に説明した選択肢を解答として選ぶ。
- 問6 : ① [ 設問チェック ] 「本文の論旨に合致するもの」を選ぶ問題であることから、  
特定の部分ではなく、本文全体から〈 根拠 〉を求める問題であることを把握する。  
また、適当な内容を選択肢から〈 二つ 〉選ぶということにも注意しておく。
- [ アプローチ ] 本文全体から〈 根拠 〉を求める設問では、  
先に選択肢文の内容に目を通し、ポイントとなる内容にチェックを入れておく。
- ② [ 本文読解 ] 本文を読解する際に、内容の要点や文構造をチェックして内容を通して把握しておく。
- ③ [ 設問読解 ] ①でチェックした選択肢文の要点と、②でチェックした本文の要点とを照らし合わせて、適切な選択肢文を吟味する。  
この際、単に文章の内容の正誤を確かめるだけではなく、文章の流れも正しく汲んだ内容説明になっているかを確認する。